

令和4年度 学校総合評価（自己評価）

1. 目指す学校像

生徒一人ひとりを尊重し、「孝 恩 徳」の校訓のもとで全人教育を実践し、将来は世界平和や社会の発展に寄与する人間を育てる学校。

2. 重点課題

「孝 恩 徳」の校訓のもと、夢にまい進する情熱を胸に、他者を助け、国際社会への貢献を己の喜びとする「真のリーダー」を養い育てるために、令和4年度は下記の3項目を中学校・高等学校の重点目標とした。

- ①学力の向上 一人ひとりの学力を上げ、目標達成を目指す
- ②人間力の向上 知的能力、社会・対人関係力、自己制御力等、未来を生きる大事な力を付ける
- ③校格の向上 学校としての品格を高める

3-1 中学校高等学校重点目標

- ①選ばれる私立の中高一貫校となる 必達は価値のある学校（授業）・魅力ある学校（授業）
- ②学力定着のために家庭学習習慣を徹底させる
自分で目標をもち、自走（自学自習）できる生徒に育てる
- ③新しい片山学園中高一貫校を作り上げる
新しい提案や企画を出し合い、職員一丸となって果敢に取り組む

3-2 中学校重点目標（アクションプラン）

- ①生活実践目標 時間を守る 場を清める 礼を尽くす
- ②学力実践目標 「わからない」を残さない 基盤となる毎日の学習内容を確実に身につけさせる。「わからない」を残さないためにどうあるべきかを常に考える。片山学園ならではの多様な実験や実習、研究や発表、独自教育を通じて、知的好奇心に満ちた学習を進める。

- ③目指す生徒像 知性・世界視野・豊かな人間性 を持つ生徒を育てる

3-3 高等学校重点目標（アクションプラン）

よい習慣作りを日々心がける

- ①即断即決する…やるべきことを見極め、速やかに実行する
- ②一芸研磨する…自分の強みを徹底的に磨く
- ③良き友と学究する…学友と高め合い競い合い学びを深める
- ④日々感謝する…日々感謝し、自分自身を自分で存分にほめる

3-4 中高重点目標より、今年度の評価については次の項目について、評価することとした。

- ①進路意識の高揚と進路実現と学力の向上
- ②ICTの活用と探究の学びの継続
- ③学校行事・部活動の充実
- ④体力の向上と品格の陶冶

①【進路意識の高揚と進路実現と学力の向上：評価A】令和5年度大学入試（第13期生）は卒業生が95名ながら、現役で東京大学1名、京都大学6名、東北大学1名、大阪大学4名、名古屋大学3名、国立医学部医学科11名（京都2、大阪1（開校以来初）、金沢2、富山6）の合格者を出した。京都大学の合格者6名は富山県内の実数でも一番多く、現役合格率では全国の全日制4702校の中で12番目、国公立医学部医学科の現役合

格者 11 名も富山県内の実数で一番多く、現役合格率で全校 11 番目（昨年は 18 番目）となり、顕著な成果の出る 1 年となった。

学力の向上においては、受験学年以外もこれまで以上に難関層向け外部模試の結果に敏感に対応するようになり、中学においては Z 会アドバンスの偏差値 55 以上、駿台全国模試偏差値 60 以上を強く意識するほか、それぞれ状態に応じた学力向上に教職員が一丸となって努めることができた。

②【ICTの活用と探究の学びの継続：評価A】教員の資質向上や教員相互の情報の共有は本校にとって必須事項である。全教員が iPad を所持し、情報共有がスムーズにできたほか、すべてのホームルーム教室の黒板を廃止し、ホワイトボードを利用して天吊り型プロジェクターを活用した授業を実施することで、板書時間を削減したり、生徒との情報共有を円滑に行ったり、ペーパーレス化を進めることができた。探究授業については、学校内の探究部を中心に探究活動の礎を作りながら、活動を進めることができた。

③【学校行事・部活動の充実：評価A】英国語学研修は中止・延期となったが、英語で学ぶ研修会、首都圏研修旅行など感染症対策を取りながら行事を実施した。また、学園祭や体育大会など、生徒の企画が十分に反映されたため、例年以上に学校行事に充実感を感じていた。

④【体力の向上と品格の陶冶：評価B】保健体育の時間と部活動の時間だけでの体力向上は難しく、学校挙げての体力向上プログラムの検討が必要である。入学時点で低体力の生徒も相当数存在しており、運動嫌いや運動不足懸念されるため、まずはより楽しく体育に取り組みさせる工夫が引き続き必要である。身だしなみや服装、品格の陶冶については正しい生活習慣を意識し実践できる生徒が多いほか、身だしなみも整っている。一方で、学校内において自ら元気よくあいさつすることについては満足のいく状態には達していない。

4. 総合評価

4 項目の評価のうち 3 項目で A を出せたことは今後の学校運営においても自信になるものではあったが、難しいのはこれらを継続することである。令和 3 年度から新設された国際科学探究コースは 2 年目となるが、定員が 13 名と少なかったことも影響し、2 人の入学生にとどまった。令和 5 年度からは 3 年制進学コースに改組するが、生徒募集に関しては現状苦労している状態が続いているので、引き続き学校評価を高める活動を地道に行いながら魅力ある学校づくりに努めていきたい。さしあたり、covid-19 の影響もほぼなくなる来年度は英国語学研修をはじめとする本校の看板行事が通常通りに実施できる見込みであるため、事前事後学習に力を注いで成功させたい。また、学習面については、低学年時の指導に力を注ぎ、学習に対するモチベーションを高めることと、大学合格実績を出すことに引き続き力を注いでいきたい。

5. 次年度に向けての課題や方策

生徒の進路実現による本校の存在意義を引き続き出していく。高校 3 年生はそれぞれの進路実現のサポートをするとともに学年ごとに学力目標を設けて、学力伸長に努めていきたい。また、引き続き探究活動をすすめ、生徒達自身が将来を見据え、進路意識の高揚と主体的な学びを実践するような学校環境を作り上げたい。また、今後も充実した行事を生徒に主体的に取り組ませ、世界を牽引するリーダーとなる人材の育成に努めていきたい。

6 アンケート結果

令和 5 年 3 月に片山学園中学校・高等学校の全校生徒、保護者の方々へアンケート調査を行った。保護者へは 14 項目、生徒へは 15 項目のアンケートを実施した。高校 3 年生の生徒へは卒業式の前日に紙でのアンケー

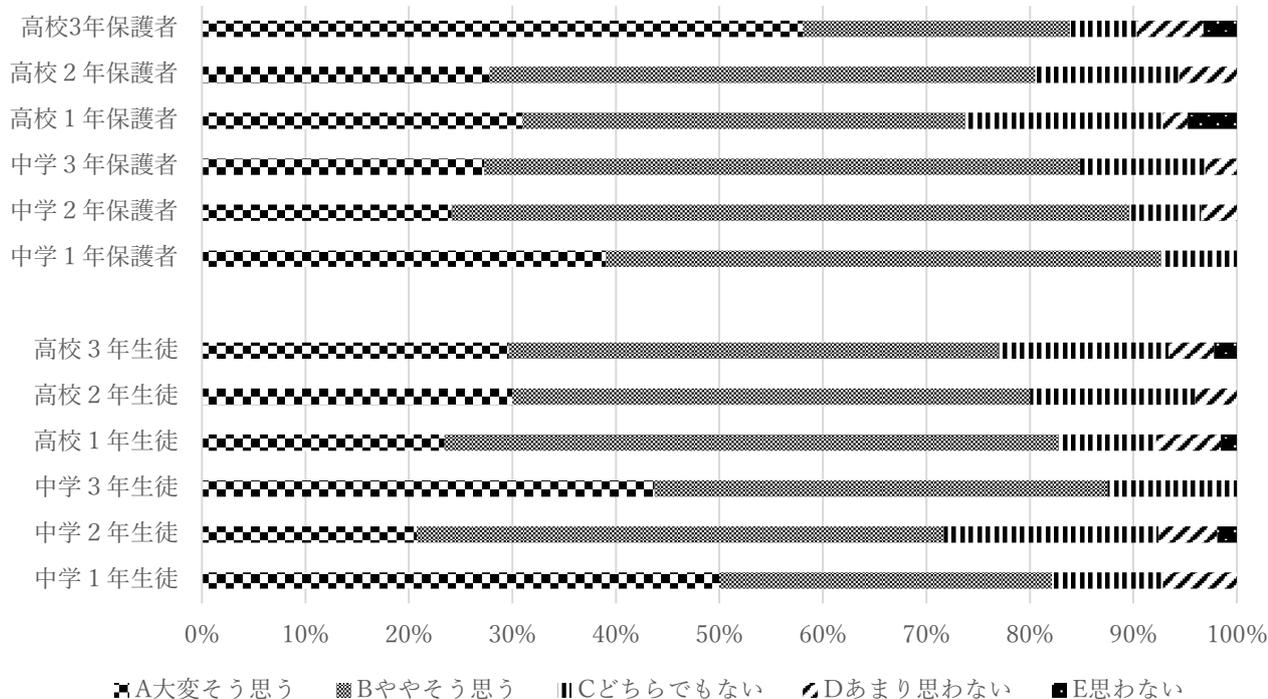
トを実施したため、91 人/95 人と高い回答率であったが、それ以外の 5 学年の生徒と卒業生の保護者には Google Forms を利用した Web アンケートを実施したため、回答率は低いものとなった。

学年属性がわかるアンケートのため、データは学年と属性（生徒・保護者のいずれか）がわかるように表記した。

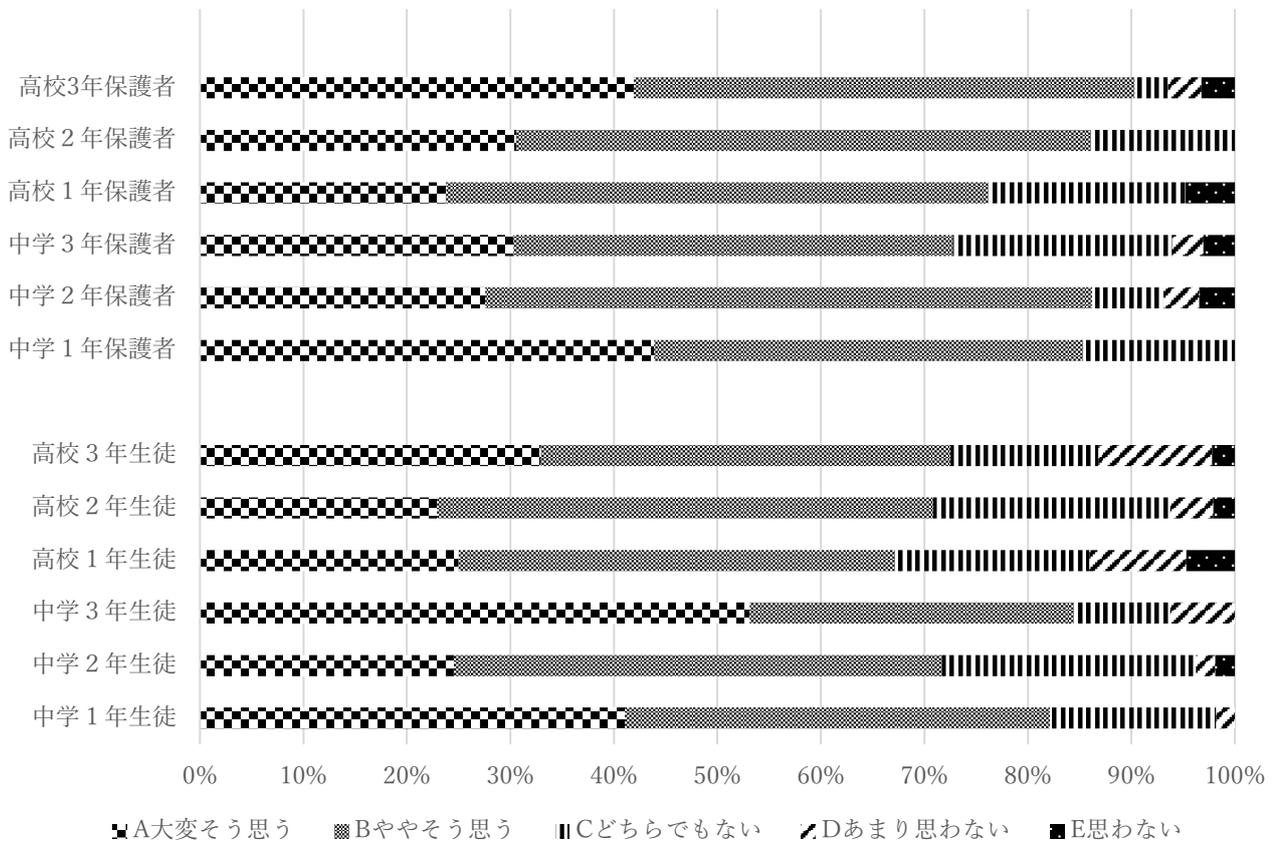
- 中1 生徒56人、保護者41人 /64人中
- 中2 生徒53人、保護者29人 /68人中
- 中3 生徒32人、保護者33人 /72人中
- 高1 生徒64人、保護者42人 /90人中
- 高2 生徒50人、保護者35人 /67人中
- 高3 生徒91人、保護者31人 /95人中

次年度のアンケートはより要望を聞くためにもアンケート方法等にも工夫が必要である。

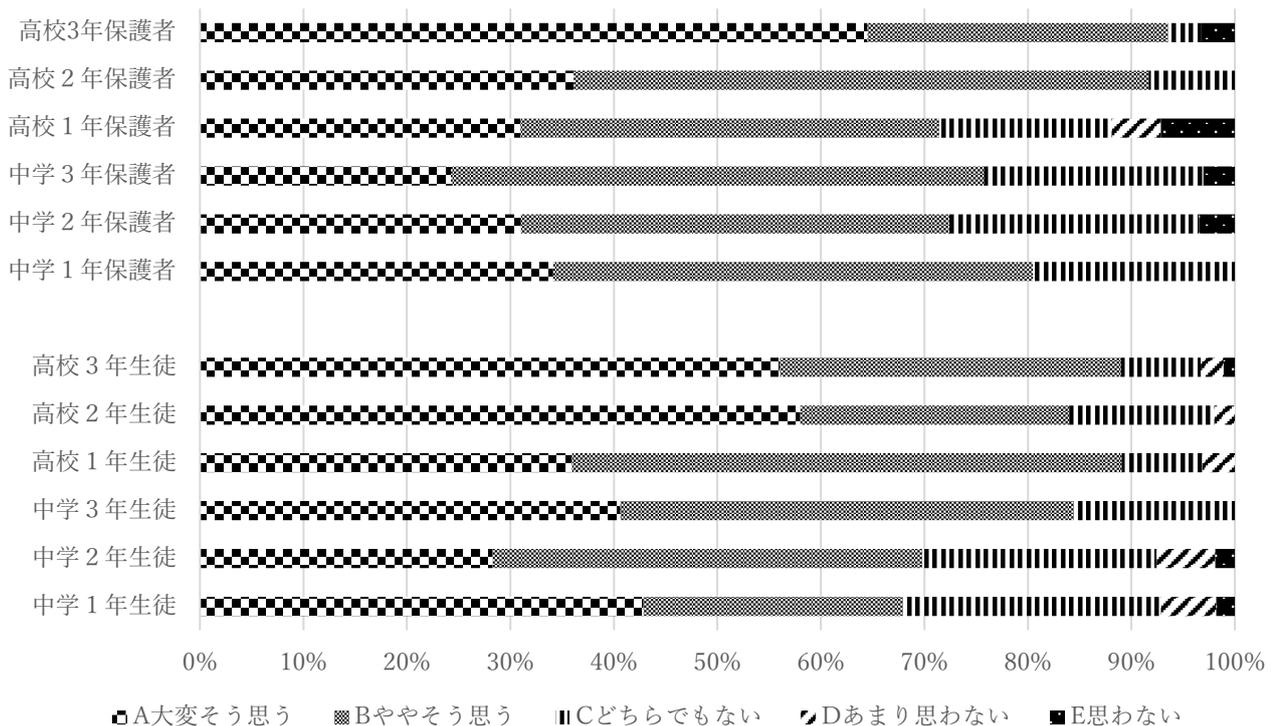
1. 片山学園の授業は学ぶ意欲を引き出し幅広い学力を身に付けられるような授業である



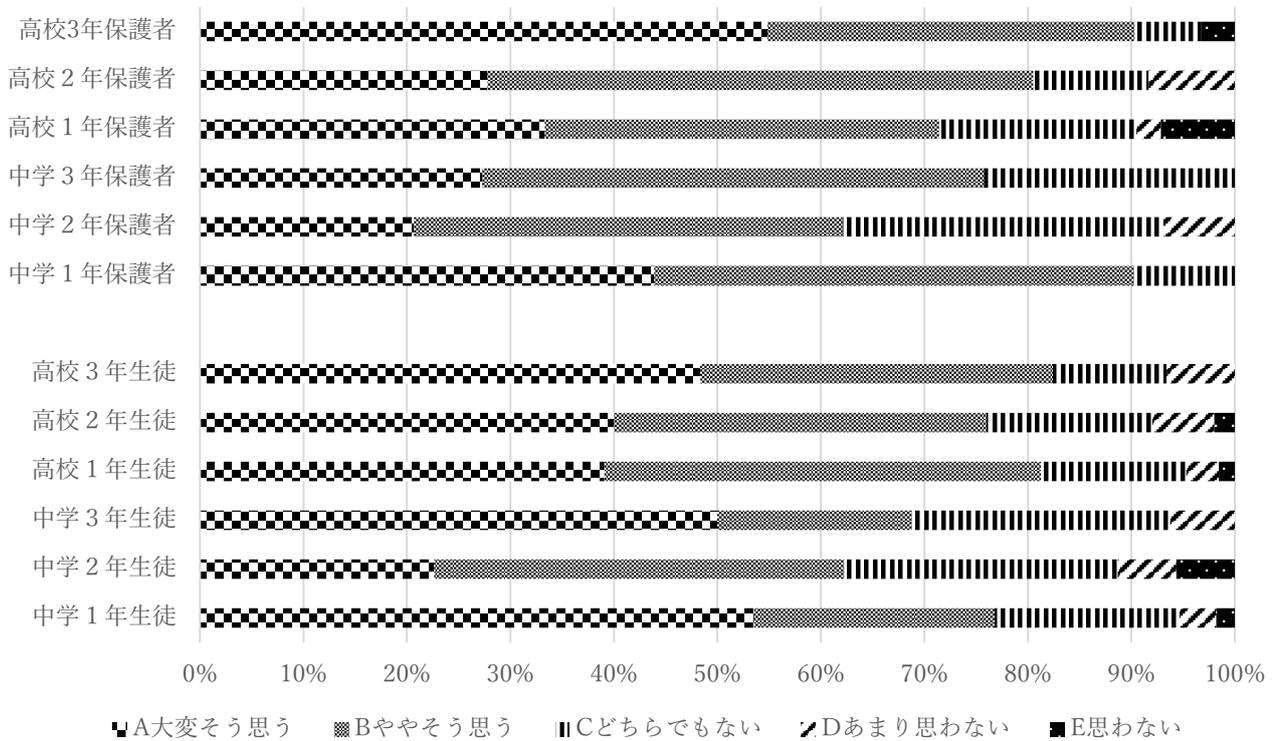
2. 片山学園の先生は挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣に関して適切に指導をしている



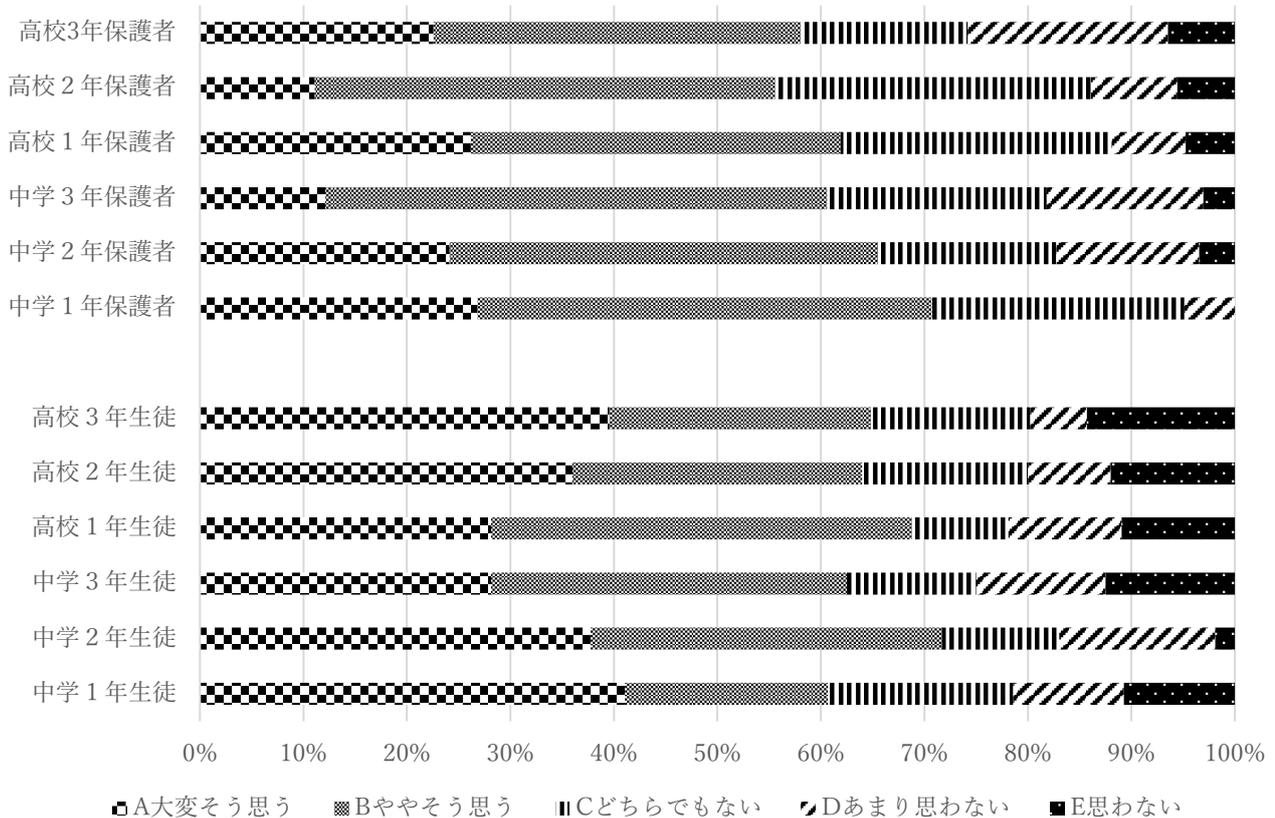
3. 片山学園の先生はあなた(生徒)の希望の進路実現に向け、適切な情報をくれたり、指導してくれたりする



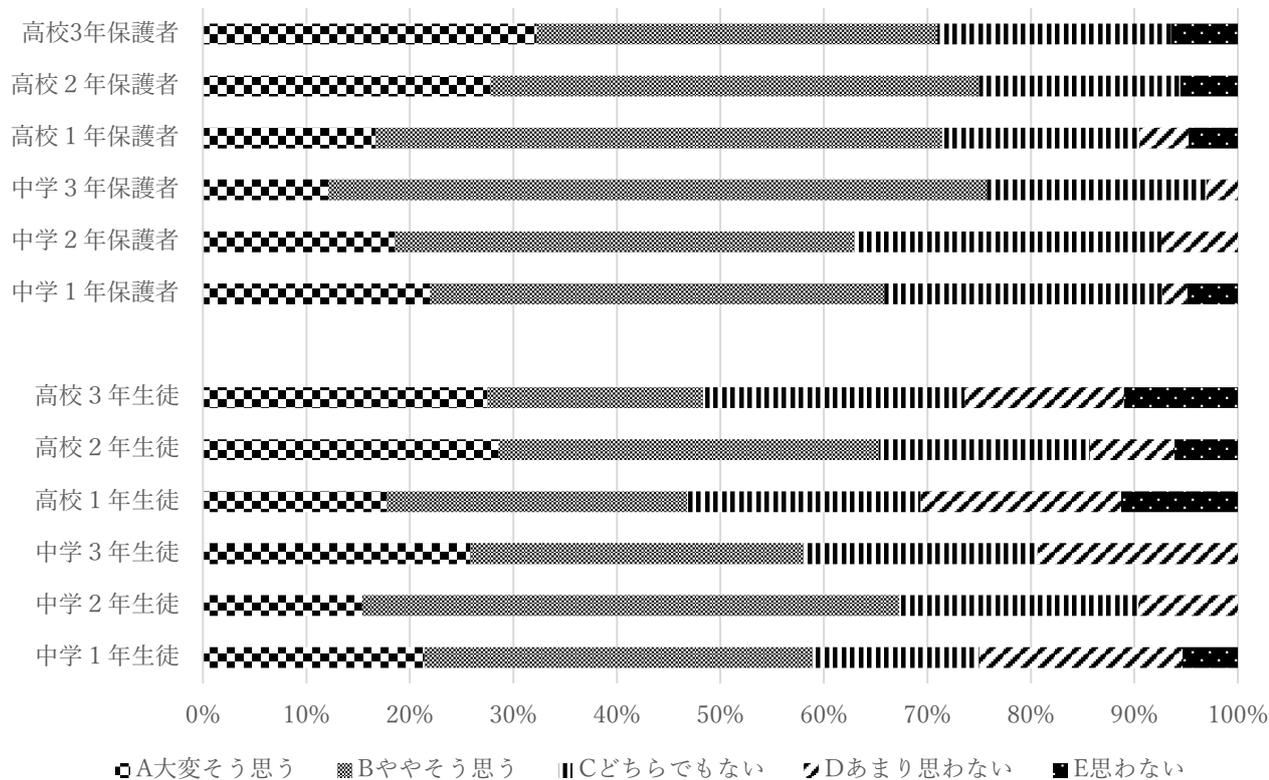
4. 先生(方)はあなた(生徒)の不安や悩みに対して、親身に相談に乗ってくれる



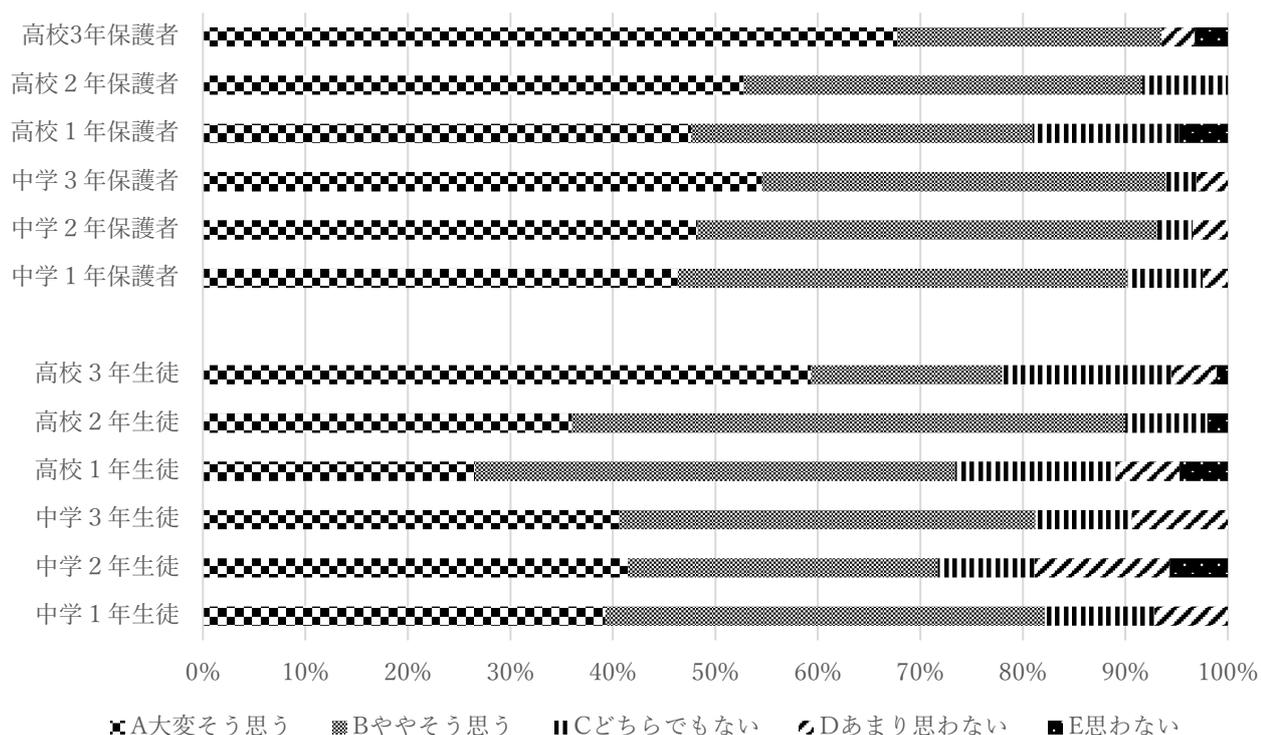
5. あなた(自分の子供)は部活動に積極的に取り組んでいる



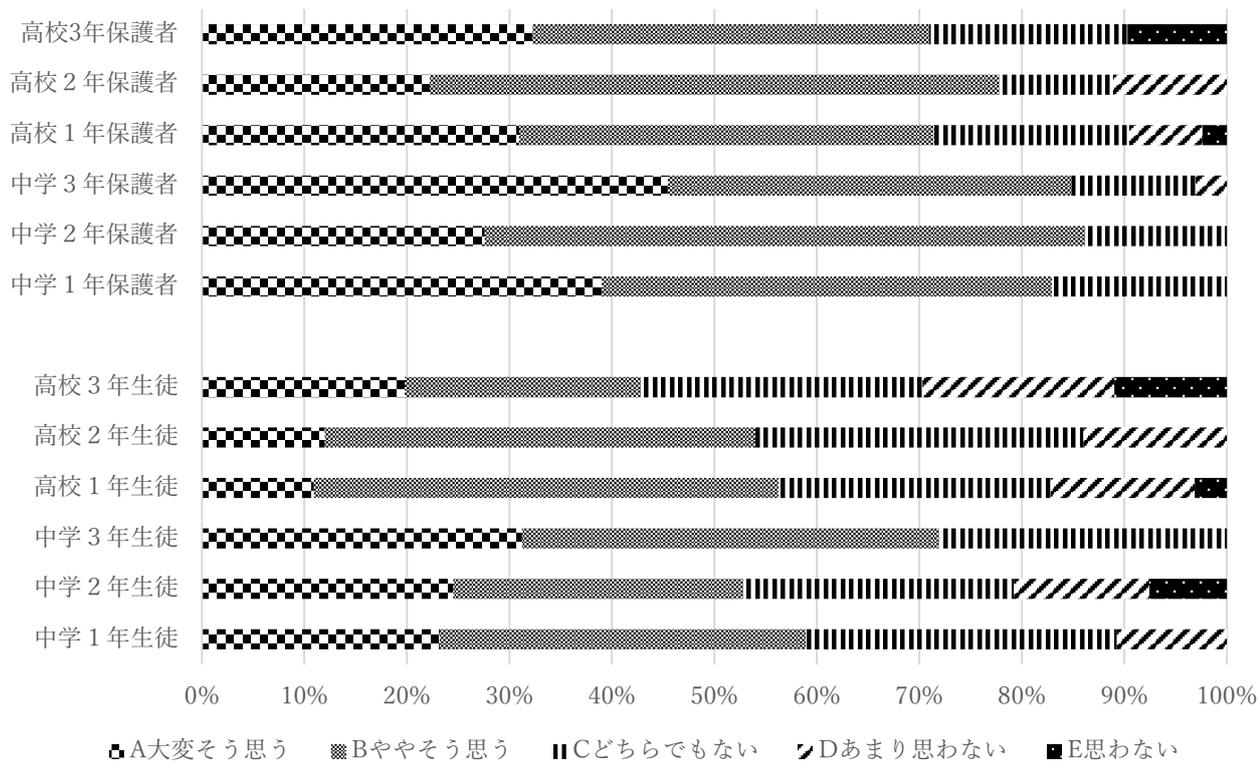
6. あなた(自分の子供)は生徒会活動や委員会活動に積極的に取り組んでいる



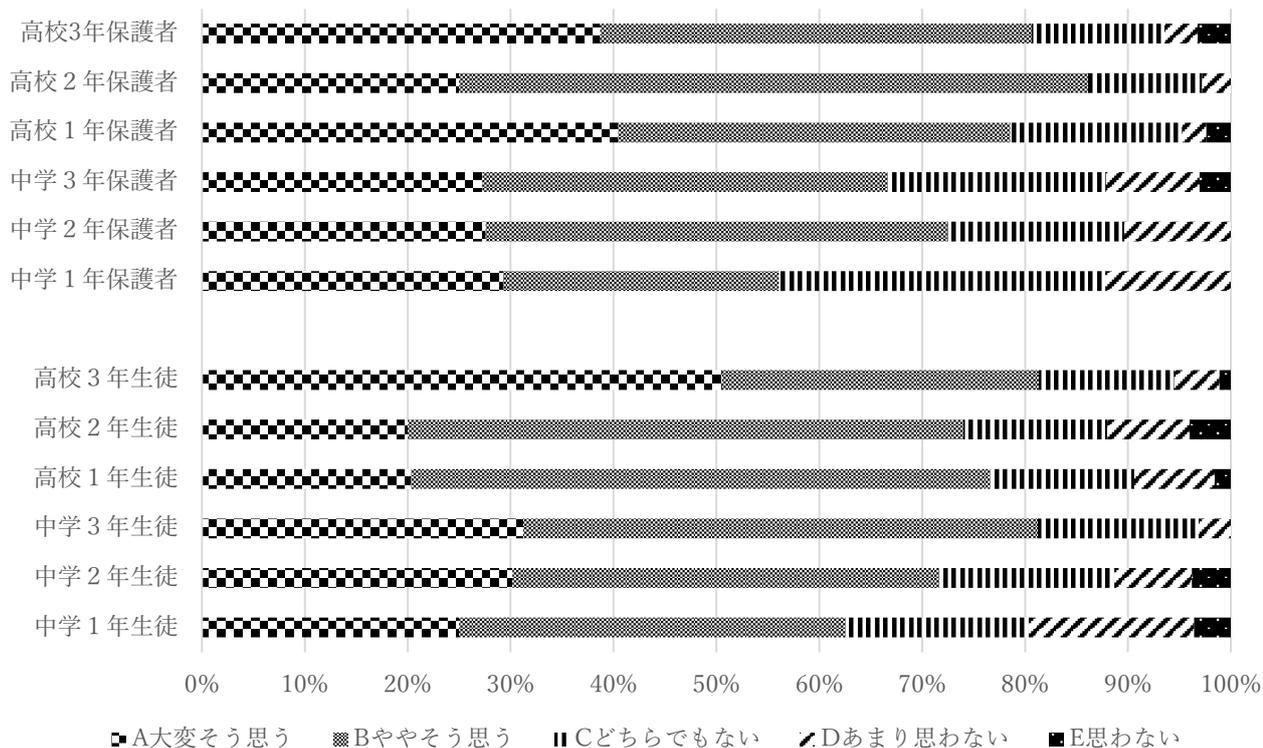
7. あなた(自分の子供)は体育大会や学園祭などの学園行事で達成感や成長を感じている



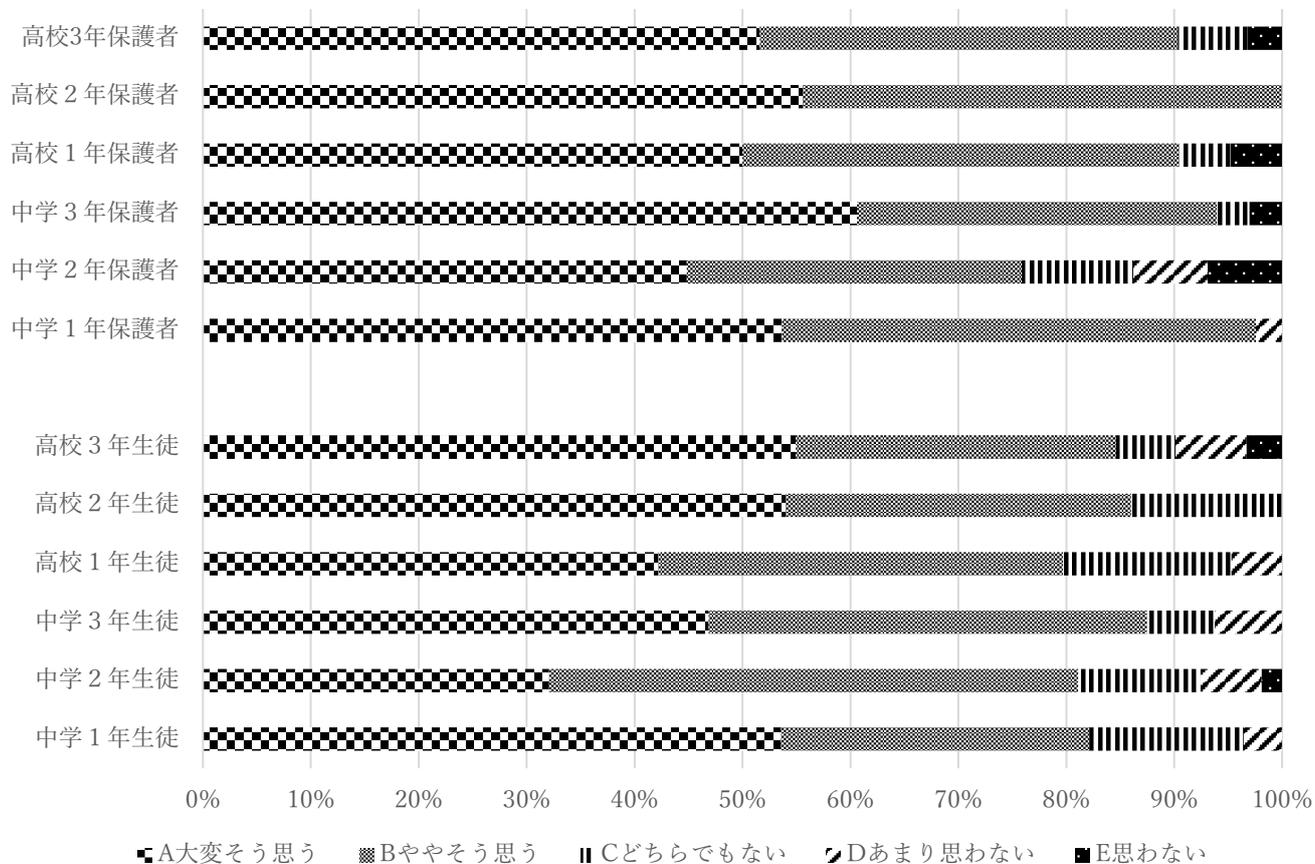
8. 片山学園ではグローバルな視点で考える活動や国際感覚を養う体験ができる(している)



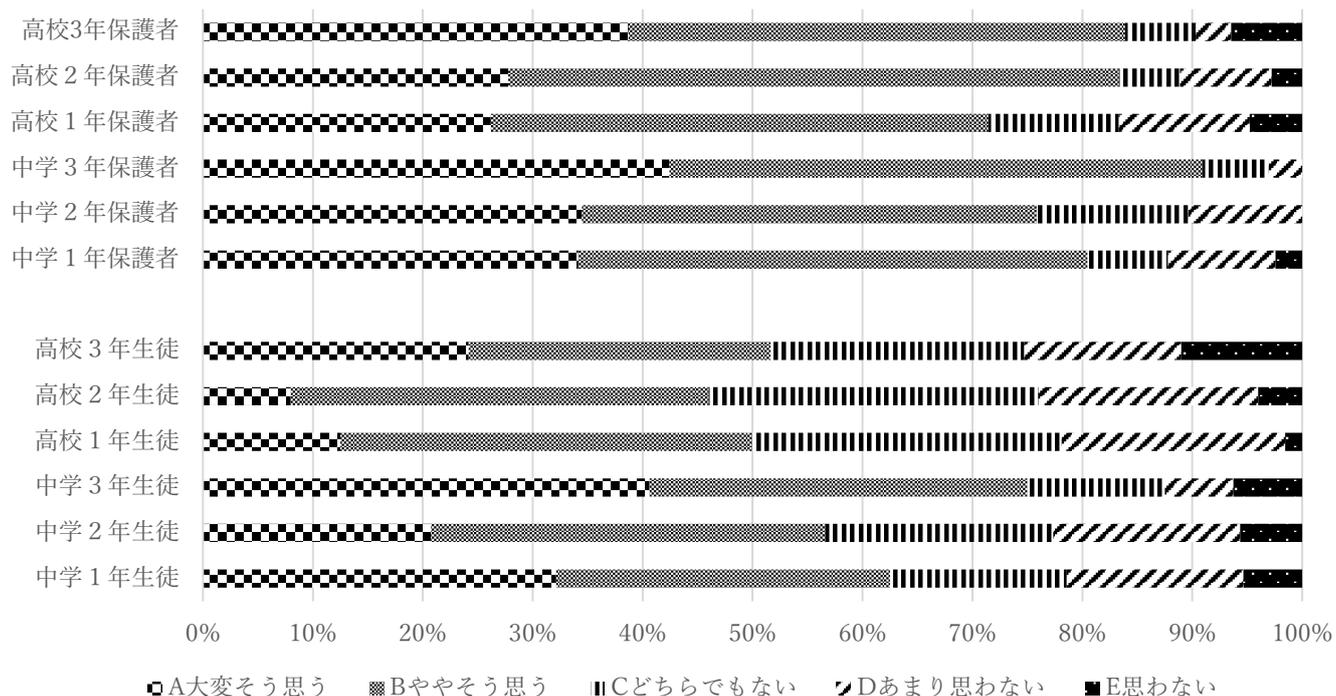
9. あなた(自分の子供)は災害時や非常時の時の避難方法や連絡方法を理解している(連絡がくる体制になっている)



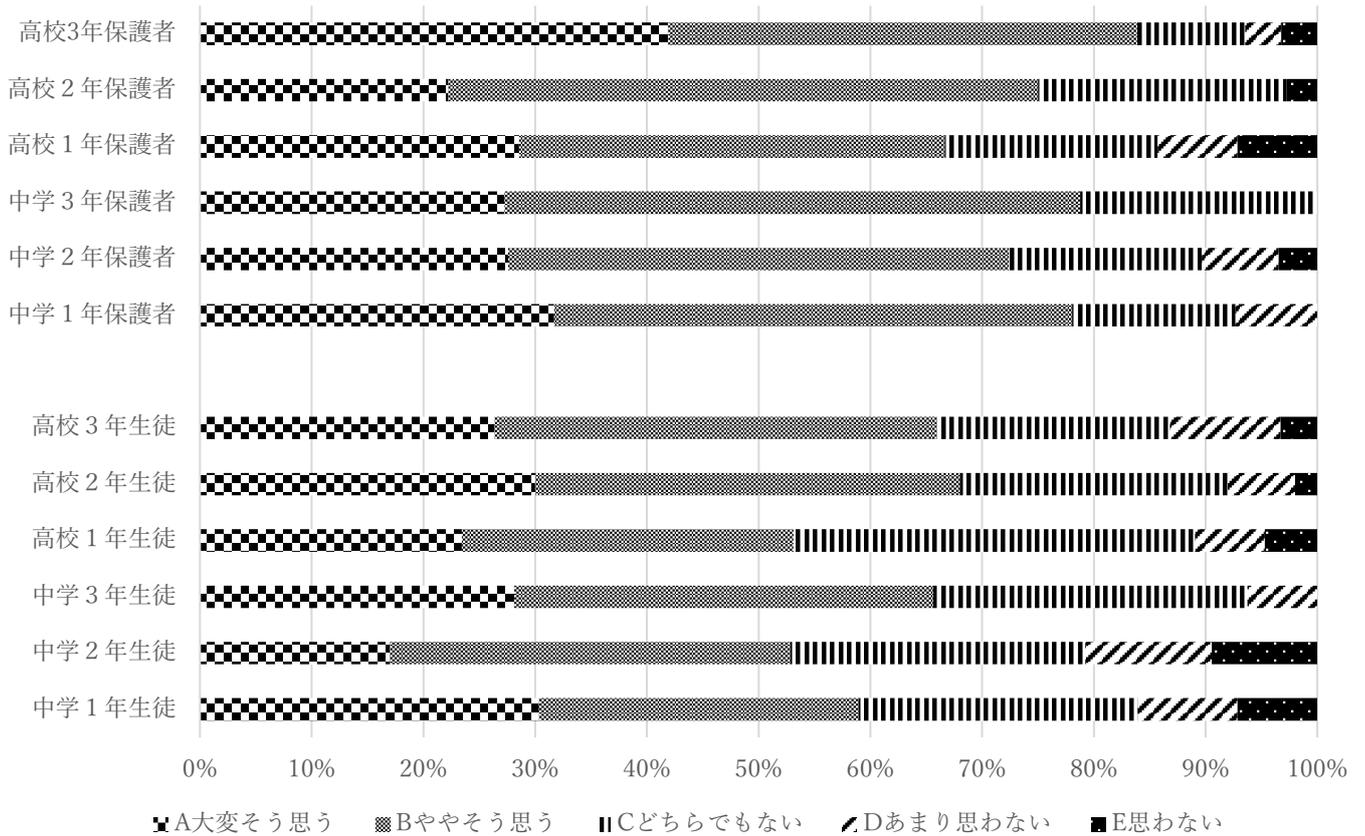
10.学校からの情報は配布物やHP、メール等の情報により適切に発信されている



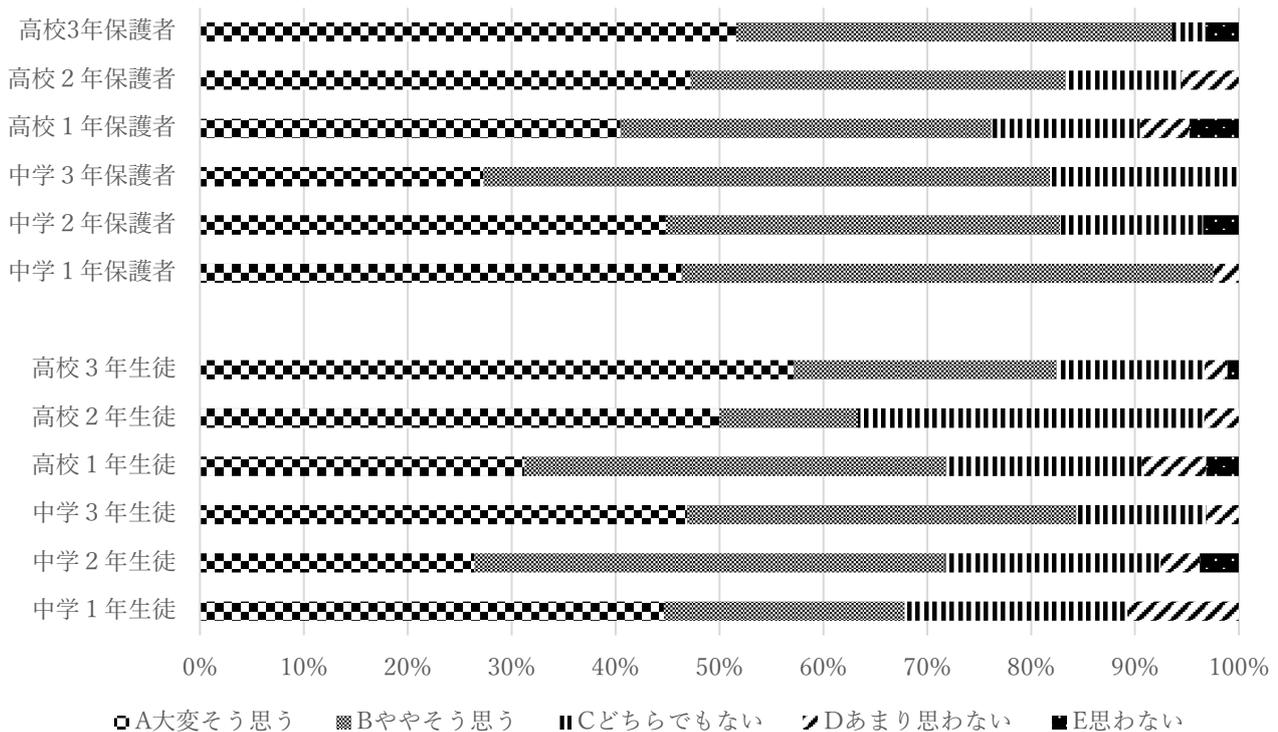
11.片山学園の校舎やグラウンドなどの設備は整備されている



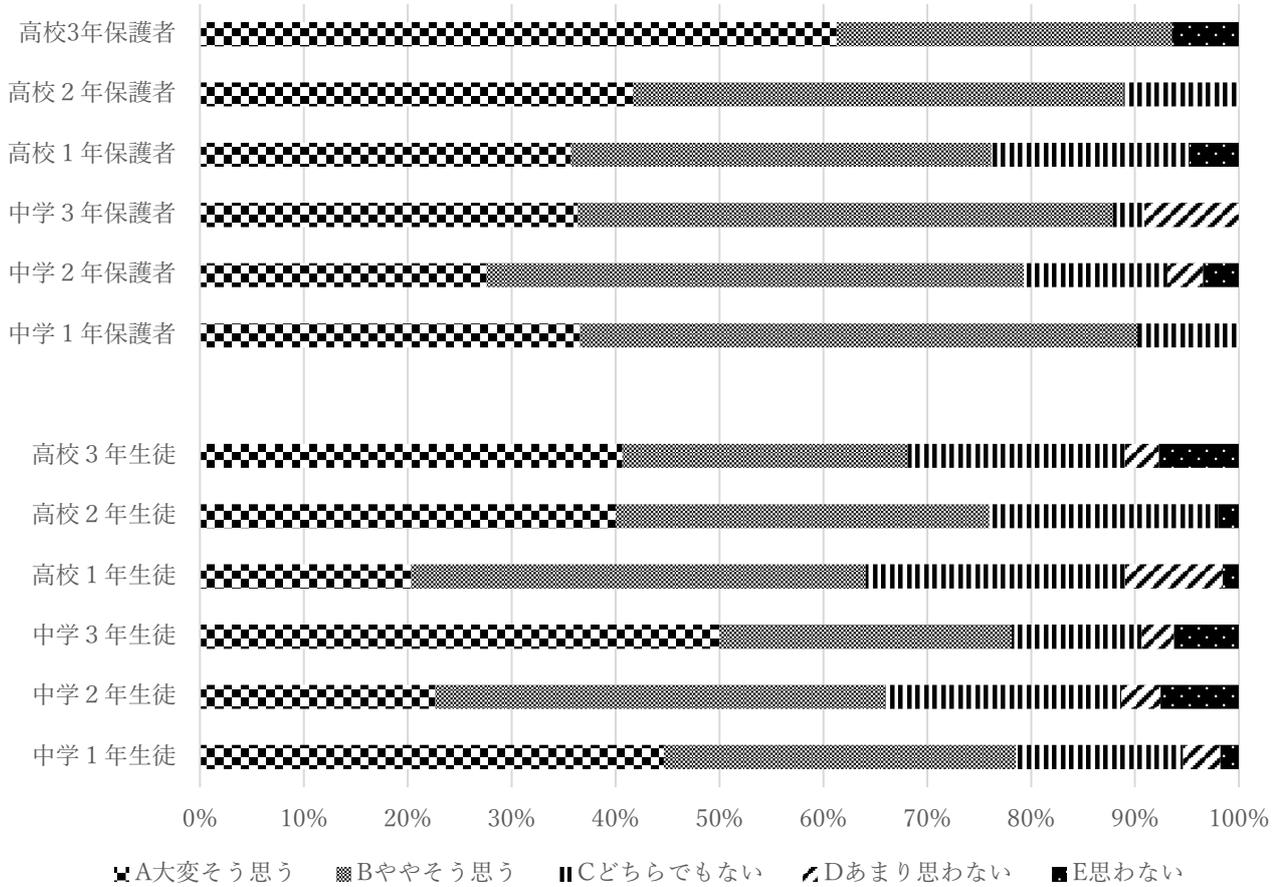
12. 片山学園はいじめや差別を許さない環境づくりに努めている



13. あなた(自分の子供)の学校生活は充実している(充実していると感じる)



14.あなたは(自分の子供が)片山学園の生徒であることに誇りを持っている



15.あなたは自分自身の将来に対し希望を持っている (生徒のみ)

